

越中の人たちの暮らしを守りたい 米沢 紋三郎

富山県の分県独立を推進

分県の建白書を提出

衆議院議員として郷土に貢献



1857 (安政4) 年3月5日—1929 (昭和4) 年11月10日

塾で先生の代理を務める

新川郡入膳村（現入善町）で裕福な農家の二男として生まれました。富山藩主に学問を教えた岡田呉陽（→26ページ）の塾に14歳で入門し、17歳で塾頭（先生の代

理）を務めるほど優秀でした。紋三郎が幼いころから心を痛めていたのは、黒部川などの急流がはんらんを繰り返して、人々に大きな被害を与えていることでした。



紋三郎が生まれた家（入善町教育委員会提供）

明治9～16年までの越中、加賀、能登



越中の独立を決意

越中国（富山県）では、黒部川のほか神通川や常願寺川などが、たびたびはんらんを起こしていました。紋三郎は、洪水を防ぐ工事を進めるために政治家になろうと決意しました。

越中国は1876（明治9）年から、加賀国（石川県南部）、能登国（石川県北部）とともに石川県となっていました。紋三郎は24歳のとき、石川県議会議員になりました。1881（明治14）年、紋三郎は県議会で、越中の川の改修工事を急

いで行う必要があると説きました。しかし、加賀と能登の議員は道路を造る方が先だと主張します。

実はこのときの越中の議員数は22人で、加賀と能登の47人の半分以上でした。議員の数が少ないため、越中側の意見は取り入れられません。越中と加賀・能登は一つの県としてまとまっていくには無理があると紋三郎は考えました。越中は石川県から独立すべきだとの決心を固めたのです。

上京して悲願を訴える

紋三郎は同じ考えの議員らを集めて独立運動を起こそうと考えました。当時は政府に反対すると罰せられることが多く、意見を言うにはかなりの覚悟が必要でした。

紋三郎は1882（明治15）年、県内の仲間たちと「越中改進黨」という政党をつくりました。大隈重信の「立憲改進黨」に合流し、東京で活躍する多くの自由民権運

動*家らと交流しました。

そして、1882（明治15）年夏、「越中分県の建白書」という越中の独立を求める意見書を書き上げました。紋三郎は9月、建白書を政府に提出するため、入善を出発し東京へ向かいました。紋三郎が25歳のときでした。

分県のため上京した越中改進黨のメンバー（中央が紋三郎）（入善町教育委員会提供）



*自由民権運動【じゆうみんけんうんどう】明治政府では、明治維新で活躍した藩出身の政治家が権力を独占していました。こうした政治に反対し、国会の開設や憲法の制定などを要求した運動が自由民権運動です。

富山県が誕生

ところが、なかなか政府の役人が来てくれません。旅館に泊まり込んで朝早くから役所へ行き、面会を待つ日が続きました。粘り強く機会を待っていたある日、やっと担当の大臣への面会が許され、ついに建白書を手渡すことができました。

それからおよそ半年後の1883（明治16）年5月9日、政府は「富山県を置く。その範囲は越中国全体とし、県庁の位置を富山とする」と発表しました。紋三郎たちの念願がかなったのです。

7月1日、正式に初代の県知事として国重正文が赴任し富山県が誕生しました。紋三郎たち関係者はもちろん、越中国の人々は大喜びしました。「分県まんじゅう」を売り出す和菓子店が現れたほどでした。

紋三郎は同年8月1日に富山県議会議員となり、議長を2回務め

ました。その後は衆議院議員に当選し、入善銀行をつくらしたり、黒部川の堤防工事を進めたりして郷土の発展に尽くしました。



富山県設置を決めた太政官通達書（富山県公文書館蔵）



「越中分県の建白書」の写し（入善町教育委員会提供）



富山城址に開庁した富山県庁（富山市郷土博物館所蔵）

夢や志をかなえたポイント

- 周りの人が幸せになる方法を考える
- 正しいと信じたことは、あきらめない
- 困ったときに助けてくれる仲間をもつ

1857 (安政4)	0歳
新川郡入膳村の豪農の家に生まれる	
1874 (明治7)	17歳
岡田呉陽の塾の塾頭になる	
1881 (明治14)	24歳
石川県議会議員になる	
1882 (明治15)	25歳
越中改進黨を結成	
「越中分県建白書」を執筆する	
1883 (明治16)	26歳
富山県議会議員になる	
1886 (明治19)	29歳
富山県議会議員を辞める	
1896 (明治29)	39歳
入善銀行を設立し、頭取になる	
1903 (明治36)	46歳
衆議院議員となり立憲政友会に入党	
1910 (明治43)	53歳
政界を引退	
1911 (明治44)	54歳
入善銀行頭取を辞める	
1929 (昭和4)	72歳
「霊魂不滅論」の執筆中に亡くなる	

北陸の自由民権運動の草分け、稲垣示

紋三郎と同じ時代に、北陸で先駆けて自由民権運動を起こしたのは、射水郡棚田村（現射水市）出身の稲垣示です。稲垣は板垣退助の考えに共感し、1880（明治13）年、富山県で初めての政治団体を高岡につくり、2年後には退助による日本最初の政党「自由党」と考えを同じくする「北立自由党」を高岡で発足させました。示は後に国会議員となり、普通選挙の実現のために運動を続けました。



稲垣示の碑（射水市棚田）